

07 農業・林業

基本情報



【年 齢】
21歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
学生
【活動時期】
R6.4～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

- ・北海道農業専門学校在学中に当別町で農業研修を行った際に、研修先の農家さんからわかりやすく指導して頂いたことから、当別町での就農を考えるようになりました。
- ・当別高校に3年間通っていたことから、当別町への思い入れもあり、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・任期終了後は当別町内の花卉農家で働きたいので、活動期間中に各作物の生産技術をしっかりと身に付けていきたいです。

活動内容

●花づくりの習得

- ・ユリやスターチス、トルコギキョウ等の切り花の収穫・選別と花束作りを行いながら、様々な花づくりを学んでいます。
- ・作業量が多くなっている中でも、研修先の農家さんからアドバイスをもらいながら、花づくりについて学んでいます。



●野菜づくりの習得

- ・南瓜やピーマン・ナス・ミニトマトなど、様々な野菜づくりを学んでいます。
- ・品種によって管理の仕方が異なるため、大変な面も多いですが、やりがいを感じながら取り組むことができています。



●当別町農業や当別町産農産物のPR

- ・当別町農業のPRを行うべく、当別町農業総合支援センター公式インスタグラムを通じた情報発信を行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

当別町経済部農務課農務係

(メールアドレス) norin1@town.tobetsu.hokkaido.jp

(電話番号) 0133-23-3091

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.instagram.com/tobetsushiencenter?igsh=MWJwc2dkOGh0ZTVhcg==> (当別町農業総合支援センター公式インスタグラム)

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
青森県青森市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.7~R7.6 (予定)

協力隊に応募したきっかけ

自然が豊かなところでいちご栽培がしたいという想いがあり、5年前に関東から北海道に移住しました。当初は都会でもあり自然も豊かな札幌に移住しましたが、コロナ禍となってから趣味がキャンプになったことをきっかけに、改めて自然豊かなところに移住したいという想いが強くなりました。その際に、猿払村の夏いちごの存在を知り、当時の地域おこし協力隊の方々とオンラインでお話して、猿払村のことや活動について聞いて本格的に移住を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

猿払村でなぜ夏にいちごを育てるのか、夏いちごとはどういう作物なのかを理解してもらい、イチゴ摘み体験会やスイーツ教室を通して地域住民の方に興味関心を持ってもらう活動に努めて参りました。今後も引き続き夏いちごを通して村内や宗谷管内が盛り上がるようにPR活動に努めていきたいです。任期満了後の目標は、施設園芸ハウスの管理者として夏いちごの栽培に携わり、観光面や猿払村PRの一因を担うことが出来るようになる事です。

活動内容

●村内での施設園芸(ハウス)栽培事業

村内にある小学校グラウンド跡地に建設されたビニールハウスで、3月から11月頃まで3品種の夏いちごの栽培を行っています。従来同様に人の手による作業(定植・収穫等)を行いつつ、栽培環境のデータ(ハウス内温湿度・いちごの生育調査や糖度)をとることで、猿払の気候や規模に合わせた栽培マニュアルを構築し、作業負担の軽減を図っています。



●猿払産いちごのイベント販売やPR活動

ハウス栽培での作業の他に、村内外の個人店様やスーパーへの販売や仲卸、また猿払産夏いちごを使用したコラボ商品の開発や製造依頼を行って、道の駅で対面のイベント販売を行っています。

更には村民の猿払産夏いちごに対する知識や愛着度を持ってもらうため、村民を対象としたスイーツ教室の開催やいちご狩り体験会の企画を行い、レシピコンテストの開催などを通じて、より多くの方々に猿払産夏いちごの特徴や魅力を発信できるように活動しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) syokokanko@vill.sarufutsu.lg.jp

(電話番号) 01635-2-3134

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram :

<https://www.instagram.com/onakaiippai15?igsh=MXRoY2cwYzN6Z2hpdA==>

基本情報



【年齢】
35歳
【出身地】
宮城県七ヶ浜町
【転出元】
宮城県利府町
【前職】
利府町地域おこし協力隊
【活動時期】
R4.1～

協力隊に応募したきっかけ

前任地で梨栽培の一連の流れを取得し、今後も永続的に農業を続けていくにはどうすべきか、長らく考えていました。将来的に一次産業で生計を立てていくためには、初めからまとまった梨畑での就農準備を進めた方が効率が良いという考えに至り、その条件に当てはまる場所を求め、東北6県 + 新潟県 (男鹿市 / 花巻市 / 鶴岡市 / 酒田市 / 福島市 / 相馬市 / 美里町 / 蔵王町 / 角田市 / 新潟市南区) の梨産地を対象に情報収集を進めました。その中で、角田市の梨畑がもっとも理想に近い条件が揃っていた事が一番の志望の理由になります。

今後の抱負・任期後の目標

梨以外の果樹栽培にも積極的にチャレンジ出来ればと考えており、現在興味のある果樹としては、桃・ぶどうの2品目、加えて角田市名産の梅です。また、収穫物を生かした6次産業事業にも携わる事が叶えばと思っております。梨に限らない果樹全般に対する知識や新たな栽培技術を取得し、どの果樹においても専門的な栽培ができるようになりたいと考え、任期終了後は、梨を中心とした果樹農家として定住するとともに、地域の方々と積極的にコミュニケーションを図りながら継続的な営農活動を進められればと思います。また次世代の新規就農者のために体得した技術は全て共有し、産地を守る活動事業にも力を入れていきたいと思っております。空き家を購入し、角田に永住を決意。今後とも永続的に梨業務に携わります。

活動内容

●休耕梨園 再生計画 STAND UP!!

休耕農地、されど伸びしろがある農地があるだけ運が良い。手がける梨園は、2年から7年程度営農活動(主に梨園西側)を行っていなかった場所で、梨の木の状態はかなり悪い。しかし設備などはまだまだ活かせる状態であったため、休耕梨園(90a)を拠点にすることに決めた。損傷が激しい梨の木(およそ150本)全て伐根。そこに新たな梨苗木を植え、休耕農地をまた稼げる梨園にすることがミッションになります。3年間で、約250本の梨苗木を購入。園地の若返りを図ります。R6年1月より、新たな梨園地(23a)をお借りし、経営面積も拡大。



●北海道に学ぶ、農業経営のすすめ

広大な果樹園界隈に宿泊可能なキャンプサイトを作る計画があります。角田市姉妹都市交流事業として北海道栗山町に訪問させていただいた際に、選考事例として栗園(3ha)×キャンプ場経営を行っている農園を視察。「北海道での学びを角田の地で実践したい」をテーマに自身が手がける梨園に遊べる楽しめるキャンプサイトを作り、果樹園関係人口を増やし、新たな農産物販路及び農繁期の労働力の確保等を獲得することを目的とした活動を計画しております。



●地域住民と地域農業の現状共有

角田市で行われている「かく大學の農ある暮らし学部」を通し、地域の方々と休耕梨園に招待し、作業の現状や今後の課題や将来展望を共有しました。将来的に梨狩り体験可能な農園にしたいと考えており、様々な人が関わる、地域の方に愛される観光果樹園を目指せればと思います。

また「梨園の再生challenge」「かくだ梨まつり」を角田に思いがある方々と共に企画。角田梨のPR及び、休耕状態の梨園でも再生できる前例作りに奮闘。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) k-kikkawa@pear-farmers.life



←HP



←Instagram

吉川果樹園

kikkawa fruit farm

基本情報



【年齢】
57歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
東京都新宿区
【前職】
麒麟ビール株式会社
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

35年間勤務した麒麟ビール株式会社を定年退職するにあたり、長年にわたり日本産ホップの契約栽培でお世話になっている秋田県（横手市・大館市）でのホップ文化継承に少しでも貢献したいと思い応募しました。

2011年4月から2年半、麒麟ビール秋田支社長として秋田県の行政・商工会・流通・外食・JA・JF・メディア・地域コミュニティなど各方面の皆さまとも交流していたこともあり、横手市や大雄ホップ農業協同組合の皆さまも身近に感じられた事も大きな要因です。

今後の抱負・任期後の目標

「今の組合運営を持続可能な形にする」、「横手のホップ文化を未来に繋いでいく為の基礎を作る」という2つの大きな使命を、横手市の皆さんと一緒に全うしたいと考えています。その為にも、日本産ホップ文化の危機を世の中に伝えながら、日本産ホップ文化の魅力を発信して、ホップ生産量の安定及び、担い手の確保を推進していきます。任期後も日本産ホップ文化の伝承に関わるとともに、自身の「梨農家」になるという夢の実現に向けて可能性を探っていきたい。

活動内容

●ホップ栽培マニュアルの作成

53年の歴史がある横手でのホップ栽培において、大まかな年間の作業項目は共通ですが、生産者によって夫々に工夫や拘りがある中で、新規参加者や外部の方々にも、分かりやすい栽培マニュアルを作成。技術の伝承・発展に活用するべく、気象データや生育状況との関連性も探求し始めています。



●ホップ文化の危機及び魅力についての啓蒙活動

日本産ホップ文化の危機及び魅力について、幅広く情報発信をしていく事で、行政や地元の皆さん・ビールに関心のある方々に現状を理解して頂きホップ文化への支援や新規参入の可能性を模索しています。農水省・秋田県・ロータリークラブ・異業種交流会・地元の小学校や中学校など。



●ホップ及び生産地のブランド化推進

横手で主に生産されている「IBUKI」というホップのブランドを確立する事で、主要な生産地である「横手」のブランド向上に繋げる。麒麟ビール「晴れ風」の好調を機に、同社への働きかけを強めて、ともに日本産ホップ文化の維持・発展に向けて取り組んでいます。



日本産希少ホップ「IBUKI」が生み出す『晴れ風』の味わい。秋田県横手市の生産地を訪ねて

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(大雄ホップ農業協同組合)) taiyuhop@cello.ocn.ne.jp
(電話番号(大雄ホップ農業協同組合)) 0182-52-2631

【よこてホッププロジェクト】

<https://www.facebook.com/yokotebeer>

基本情報



【年齢】
22歳
【出身地】
福島県郡山市
【転出元】
東京都町田市
【前職】
学生
【活動時期】
R6.4～

協力隊に応募したきっかけ

地元で何か役に立ちたいと漠然と考えている中、講義で「地域おこし協力隊」という制度があることを知りました。農学部であり、自然環境や農業に関心があった私は、地元の豊かな自然環境を子供をはじめとして様々な方に体験してもらいたいと思い、グリーンツーリズムのさらなる推進を提案し、入隊しました。

今後の抱負・任期後の目標

1年目では農業体験の基盤を作るため、自ら実際に1年を通して作物栽培と農業体験の受け入れを行いました。今後空き家を利用できる目処が立っているため、そこを自然体験施設とし、大学の実習地や自然体験スクールの開校を目指しています。任期後もそこを拠点とし、生業としていきたいと思っています。

活動内容

● 村内施設の圃場管理

今年度の活動のメインは村内施設“森の駅yodge”の圃場管理でした。ここではコンテンツの一つとして農業体験があり、そのための圃場管理を行いました。夏はトマトやオクラ、ナス等を栽培し、yodgeのレストランで提供されました。



● 農業体験実施

外部で関東から希望者をアテンドする企業と連携し、農業体験を実施しました。季節に合わせた野菜の定植や収穫、稲刈り体験を行い、参加者を楽しませることができました。また、農業体験イベントを企画し、失敗もありましたが大学生に参加してもらうことができました。



● 村内イベントでのワークショップ出店

生態系サービスを利用することも自然体験の1つと考え、剪定枝を用いて工作をするワークショップをイベントの際に出店しました。客数が少なかつたため、これについては工作イベントとして企画するほうが効果的であると感じました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) t.okoshi.Shiozawa@gmail.com
(電話番号(職場)) 0247-57-2104

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram



基本情報



【年齢】
28歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
東京都江戸川区
【前職】
都内区立保育園 栄養士
【活動時期】
R2.6~R7.11

協力隊に応募したきっかけ

福島へ行ったことすらありませんでしたが、郡山出身の友人をきっかけに連休のたびに郡山へ遊びに行くようになりました。行き来を重ねるうちに友人知人が増え、東京での仕事や当時通っていた夜間のスクーリングもひと段落つきそうだというタイミングで郡山の知人から「地域おこし協力隊」をご紹介いただきました。東京へ帰ってくるたびに視覚的情報量の多さにストレスを感じていたこと、新たな土地で自分のスキルが活かせる仕事がしたいと考えるようになり、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度取り組んだイベント2本が多くの方からご好評いただき、開催後も次回開催の期待の声が寄せられました。引き続き地域の魅力をPRする取り組みをしながら、今後はさらにターゲットを外へ広がりを持たせられたらとも考えています。

任期後については着任1年目に興じた会社の運営と、会社とは別に個人事業主としても開業しキッチンカー事業も並行して進めていきたいと考えています。会社では既に郡山の特産品「鯉」を活用した6次化商品「鯉とば」「Carp Leather」の開発やYouTubeを活用した魅力発信事業、移住定住促進事業に取り組んでいます。キッチンカー事業では県内産食材を使用した商品を販売予定です。どちらも地域に根差した取り組みをしていきたいです。

活動内容

●地域の「食」をテーマにイベント開催！

R6.7月「こおりやまサマーナイトマルシェ（来場者1,200人）」、R6.9月「こおりやま秋のパンまつり（来場者4,500人）」を開催し、郡山や周辺市町村の飲食店さんにご出店いただき、大勢の方に足を運んでいただけたイベントとなりました。それぞれテーマを設け、色々な角度から「郡山の食」をPRしたイベントとなりました。



●YouTubeを活用したPRも力を入れています！

郡山市や周辺市町村の情報をYouTubeで発信しています。地元飲食店やローカル商品の紹介、田植え体験、地元バスケットボールチームへの取材などを行っています。「えみたろ」の愛称で地元の方々にも覚えていただき、イベントなどでも視聴者の方からお声がけいただくほどになりました。



動画投稿本数：112本
チャンネル登録者数：1,250人

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））emi.s@fukushima-local.com
（電話番号（個人））080-9261-9958

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（個人Instagram）

https://www.instagram.com/emi__taro

協力隊
Instagram



協力隊
YouTube



基本情報



【年齢】
35歳
【出身地】
東京都 葛飾区
【転出元】
千葉県 柏市
【前職】
食品総合商社 営業
【活動時期】
R5.9～R8.8

協力隊に応募したきっかけ

2023年に行われた『おためし地域おこし協力隊ツアー』に参加したことがきっかけでした。

それまで、『食品ロス改善』活動を独自に行っており、自身でジビエを通じて活動をしていきたいと模索しておりました。その時に「地域おこし協力隊」のことを知り、どのようなもの知りたくてツアーに参加しました。ツアー時に担当の方にお話をさせていただき、狩猟のミッションはありませんでしたが「応募してくれるならそのミッションを作ると言っていたら、応募しました。」

今後の抱負・任期後の目標

現在、「地域おこし協力隊」になって1年が経ちました。この1年は、狩猟を始める為に必要な資格や知識の収集に力を注いでおりました。2年目以降は、那須町で『鳥獣被害相談窓口』を設置して地域に根付いた活動を中心にしていきます。その活動を退任後も続けていけるように『起業』という形を行い、鳥獣被害対策業務を中心に活動を行っていきます。

活動内容

● 毎月の射撃練習

半年と長い時間をかけて『第一種狩猟免許』と『猟銃所持許可書』を取得することが出来ました。自身の猟銃を持ってからは、先輩猟師さんから教えてもらい、毎月1回は『射撃場』に行ってお練習をするようにしています。



● 地元の草刈り活動

栃木県で行っている『TUNAGU』というイベント・ボランティア募集などを行っているサイトがきっかけで地元でボランティアを募集していることを知り、初の草刈りに参加しました。

『あしのおと』という団体を立ち上げて里山整備を通じて鳥獣への対策を伝えております。



● 保存会の所属、お祭りに出演

地方に移住する前から『移住したら地元の和太鼓をやりたい』という思いがあり、保存会の方を紹介して頂きました。

そこから半年間練習を行い、舞台に出てみるかというお話を頂き、早くも目標を実現することが出来ました。今後も続けていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））ariasic487www@gmail.com
（電話番号（個人））080-6643-4329
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/ariasic_jin/
（note）https://note.com/gentle_macaw408/n/n84cd9



基本情報



【年齢】
34歳
【出身地】
埼玉県川越市
【転出元】
埼玉県川越市
【前職】
会社員
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

R4年度藤岡市主催の林業体験ツアーを通じて藤岡市の林業に興味を持ち応募した。

藤岡市はアクセスも良く、実家から近いことにも魅力を感じた。

特に自伐型林業に興味があるので、地域おこし協力隊として林業のスキルを身につけ、経験を積みながら将来は自伐型林業に携わる事を目標に活動したい。

今後の抱負・任期後の目標

令和5年度に就任してからの一年間で、林業の基礎を学び、地元の森林組合と協定を結ぶことで実地体験をできる機会を得て、自身のスキルを高めてきた。

協力隊2年目は林業従事の枠にとらわれることなく、自身が強く興味を持っている登山ガイドを深く学んでいる。

山の魅力の発信と林業のコラボレーションにおける可能性を模索しているところであり、任期後は自身のスキルを活かし、森林・山林を活用した起業を目指している。

活動内容

●地元森林組合での実地体験

林業の現場を幅広く知ることができる機会から、林業に関する技術の習得や資格等の取得を行い自身のスキルを高めている。施業現場はもちろんのこと、森林調査・測量にも参加し、知見を広げている。



●林業に関する自身の活動内容のPR

藤岡市のホームページ内では、地域おこし協力隊員の活動レポートを毎月更新している。そこでは林業に関することや日々の発見など、藤岡市の森林や自然、林業の魅力について発信を行っている。



●起業に向けた取り組み

林業だけではなく、森林や自然の素晴らしさを伝えることができる職業を確立するために、協力隊間の情報収集をはじめ、起業に向けての必須の知識や経験を積み上げている。重機オペレーター・登山ガイド・森林インストラクター等の資格取得や研修に参加。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) sinrin@city.fujioka.gunma.jp
(電話番号(職場)) 0274-40-2316

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(藤岡市HP) https://www.city.fujioka.gunma.jp/iju_teiji/7553.html

基本情報



【年齢】
25歳
【出身地】
埼玉県ふじみ野市
【転出元】
埼玉県ふじみ野市
【前職】
IT企業
【活動時期】
R4.10～R7.9

協力隊に応募したきっかけ

自分が食べているものがどこから来ているんだろう？という疑問と興味から、学生の頃にファームステイをしたり、様々な農家さんのところを訪れる中で小川町と出会いました。はじめはイベントや農家さんのお手伝いの度に小川町に通っていましたが、農産物の生産から流通、消費、廃棄までの循環の輪が感じられるこの町の魅力に惹かれ、出会う人たちのあたたかさに触れ、より深く関わってみたい！と思うようになり、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の皆さんとの日々のコミュニケーションを大切に、3年目も活動していきたいです。
特に、おがわんプロジェクトの輪に、より多くの事業者、レストラン、消費者などが参加できる関わり合いを作ること、暮らしにかかわる農業と食、地域の風景に人々が心を寄せるきっかけを作ること尽力したいと考えています！
都市と農村、生産者と消費者をつなぐ役割を果たせるように頑張ります！

活動内容

●おがわんプロジェクトと地域認証「OGAWA'N」の推進

小川町の農業を生産者だけでなく、レストラン、事業者、学校、そして消費者みんなで応援して盛り上げていこう！というおがわんプロジェクトの取組。その推進のための冊子の作成やマルシェの出店、イベントの企画運営、また、OGAWA'N認証の在り方を農家さんと役場の方々と一緒に検討を進めています。



●小川町の女性農業者による「GOMAの会」事務局

栽培を通して女性農業者同士が交流する機会を作りたい、小川町の特産品として町を盛り上げたい！という目的で始まった金胡麻の共同栽培。町内の女性農業委員さんを筆頭に、女性農業者、町内外からの有機農業入門講座受講生、卒業生などが参加し、今年(2期目)は28名が会に在籍し活動しています。



●資源循環の現場をまわる「ぐるぐるツアー」の開催

小川町の八和田地区にある、バイオガスプラントや堆肥場、里山、ため池などの資源循環の現場を、長年関わってきた地元の方々と交流をしながら、見て歩いてのちが生まれ変わりながら回っている様子を一緒に体感するツアー。これまで6回開催し、累計100名を超える方々にご参加いただきました。



連絡先

【連絡先】電話番号（小川町役場）0493-72-1221
【note】<https://note.com/ogawanproject>

基本情報



【年齢】
33歳
【出身地】
東京都目黒区
【転出元】
東京都世田谷区
【前職】
造園業
【活動時期】
R4.8～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

幼少期から、都心よりも自然豊かな環境に惹かれていました。田舎暮らしに憧れを抱くも、きっかけがないままずっと中、2012年にTV放送されたドラマ『遅咲きのヒマワリ』を見て、地域おこし協力隊制度の存在を知り、いつか移住するときは、地域おこし協力隊として移住しようと思ったことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

ただの移住者ではなく、村民になりたいです。村に暮らし、村で仕事をし、村と共に生き続けることが大きな目標です。そのために、地域の暮らしを維持するお手伝いを担って行けたらと考えています。また、協力隊活動の中で見出した畑わさびの栽培を軌道に乗せるため、任期後も継続的に栽培を行っていきます。

活動内容

●地域を知るための活動と人脈づくり

地域を周り、住民や村内事業者との交流をする中で、地域の歴史背景やこれまでの地域の取り組みを学び、現状、課題を把握する活動。

また、交流の中で人間関係を構築し、活動のバックアップをしてくれる応援者をつくる活動。地域PRイベントへの参加。



●地域特産品の生産協力と自身のPR活動

村をあげて取り組んでいる特産品「じゃがいも」をはじめ、その他の地域特性を活かした特産品の生産協力。

こうした生産協力の中で、ノウハウを学び、その地域の環境特性を学ぶ活動。

また、造園業で培った自身の経験のPR活動。



●畑わさび試験栽培

檜原村に合う新事業として、畑わさびの生産に取り組んでいます。まだまだ課題は山積みですが、任期後も継続して栽培に降り組んでいきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) muradukuri@vill.hinohara.Tokyo.jp
(電話番号) 042-519-9556

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(檜原村地域おこし協力隊Facebook)
<https://www.facebook.com/hinohara.chioko.tokyo/>

基本情報



【年 齢】
54歳
【出身地】
兵庫県
【転出元】
滋賀県大津市
【前 職】
電機メーカーエンジニア
理学療法士
【活動時期】
R4.2.1～R7.1.31

協力隊に応募したきっかけ

結婚し、子どもを育てるなかで自然豊かな土地で子育てをしたいと思うと同時に、「食べたものがこの子の体をつくる」と気づき、オーガニックに興味を持つ。移住フェアにて富山県の自然栽培の米農家と知り合い、富山県に訪問。その後、上市町の暮らし体感ツアーへの参加を経て、令和4年2月に上市町に移住し、地域おこし協力隊に着任した。

今後の抱負・任期後の目標

自然栽培の米作りや有機農業の普及活動を続けていくとともに、理学療法士の資格等も活かして、地域とのかかわり合いを大切にしながら活動していきたい。

活動内容

●耕作放棄地の有効活用を目的に自然栽培（無農薬・無肥料）の米作りを実施

未経験で農地や農機具がないところからスタートしたが、地域住民の理解と協力を得て、1年目から米の収穫まで繋げた。また、地域の子もたちと一緒に田植祭り等も実施。町の課題となっていた耕作放棄地を有効的に活用するとともに、地域活性化にも貢献している。

●有機農業の普及を通じた地域コミュニティの形成・移住促進

①オーガニックマーケットの開催

有機農業の普及と町の賑わい創出を目的にイベントを企画・開催。令和6年11月24日（日）に開催した第3回上市オーガニックマーケットでは、地域で有機食材を扱う農家や事業者29店舗が出店した。無農薬で栽培された米や野菜を求め多くの来場者で賑わった。



②“小さな自給農家さんプロジェクト”の実施及び横のつながり「かみいち結」の仕組み作り

農業に挑戦したい方を集め、農地提供から収穫までをサポートした。

③学校給食で自身の栽培した有機米を提供

地域のお母さんたちと協力して学校給食への有機米の普及活動に取り組む。

④移住促進へ繋げる

「自然に寄り添う暮らし」をテーマに暮らし、その様子を発信することで、移住促進を目指す。移住フェア等にも積極的に参加している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) aripopi@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram 個人の活動 @kamiichi.shizen

かみいち結の活動 @satoyama.kurashi.gakko

HP 有吉自然農場 <https://ariyoshizen.wixsite.com/ariyoshizen>

基本情報



【年齢】
53歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府堺市
【前職】
ペット用品製造販売メーカー/商品開発
【活動時期】
R3.1～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

自然豊かな場所に家族で移住したいと考えていました。農業知識は皆無でしたが、天満にある園地を視察させて頂き、尾鷲湾を望む風光明媚な場所にある甘夏畑に魅了されました。また、約70年の甘夏栽培一筋である歴史があり、栽培量が少なく希少価値の高さを感じ、6次化（商品開発・販路）により尾鷲甘夏を活性化できる夢がある仕事であると魅力を感じました。

今後の抱負・任期後の目標

約70年続く甘夏栽培の歴史を繋いでいく為に、天満地区の甘夏栽培の中心的な役割ができる人材になりたいと考えています。現在取り組んでいる無農薬・無肥料の植物本来の力を引き出すDOHOスタイル手法にて、経済性に優れる農家を目指し、チャレンジしたくなる新規就農者を増やしていきたいと考えます。任期後は、甘夏栽培を行いながら、増加する耕作放棄地の再生拡大、6次化を加速させながら、尾鷲甘夏需要の開拓を行っていきます。

活動内容

●耕作放棄地の再生/有機栽培（DOHOスタイル）

耕作放棄地からの再生活動を行い、有機栽培のDOHOスタイルを取り入れることで、香りの高い美味しい甘夏を生み出すことで価値を高めていきます。尾鷲甘夏の復活を目指します。



●6次化（新商品開発）にて、甘夏需要拡大

尾鷲甘夏を加工品開発することで、甘夏の可能性をPRし、甘夏需要の拡大を図りたいと思います。



●尾鷲のソウルフルーツとしての復活

尾鷲の甘夏は、開拓計画から約70年の歴史があるソウルフルーツです。

小学校の教育（収穫・給食）に取り入れてもらうことで、地産地消により社会的側面でも地域にとって貴重な資源としていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス：個人）amanatsu2021@gmail.com
（電話番号：個人）090-8467-5812

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram：https://www.instagram.com/amanatsu_tenma/

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
兵庫県丹波市
【転出元】
兵庫県丹波市
【前 職】
畜産業
【活動時期】
R5.6～R8.6

協力隊に応募したきっかけ

以前していた牧場の職場では、鳥獣被害に悩まされていました。被害を食い止めるためにと、半ば趣味として狩猟を始めましたが、やっていくうちにより深く狩猟をしたいと思いたちました。
牧場を退職後、今まで趣味でしていた狩猟を仕事にしたいと考え、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

自分でジビエ製品の加工、販売をしたいです。
任期後の目標は、大豊町に定住して狩猟活動を続けていきたいです。

活動内容

●有害鳥獣捕獲・解体

有害鳥獣の捕獲をしています。獲れたシカやイノシシは解体処理施設（猪鹿工房おとよ）で食肉処理をしています。



●地域と協働で罠の設置

住人の方々と協力をしてサルの捕獲をしています。



●ジビエの加工・製造

研修先の猪鹿工房おとよで、ジビエ製品の加工、製造の研修をしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））個人用 sayaka.9999393@gmail.com
（電話番号（個人or職場））個人用 080-6118-3432
職場用 0887-72-0450

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
福岡県福岡市
【転出元】
鳥取県鳥取市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R4. 4 ~ R7.3

協力隊に応募したきっかけ

もともとコケに興味を持っており、その中で屋久島というコケの宝庫に移住することを決めました。移住するにあたり、職を探していたところ、自由提案型での募集が屋久島町にてあり、自身の強みでもあるコケで仕事ができると考え、募集しました。

今後の抱負・任期後の目標

活動の目的でもある、屋久島のコケ産業を確立させること、それに必要なコケ農協を屋久島で始めたいと考えています。コケの生産を協力隊の任期中に増やしつつ、生産したコケを仕入れ、島内外に販売する農協のような企業を立ち上げたいです。

活動内容

●コケの生産

コケの宝庫である屋久島でコケ植物を生産しています。前年度は試験的に生産していましたが、今年度は大量生産を取るようにしています。屋久島苔生産者の会も立ちあげ、地域の方々と協力しながら生産を拡大しています。



●コケの魅力発信

コケの生産を拡大させるためにも、コケの魅力をより多くの人に知ってもらいたいです。そのためにもコケに興味を持ってもらうような企画として、野外での観察会、顕微鏡での観察、WSなどを行っています。



●情報発信

自身の活動をより多くの人に知ってもらうよう、情報発信にも努めています。SNSでの投稿はもちろん、地元ラジオへの出演や新聞への記事掲載、各イベントへの出展なども積極的に行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
「メールアドレス（個人）」 omizu.kosuke27@gmail.com
「電話番号（個人）」 080-8315-0247

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) <https://www.instagram.com/kokedou>
(note) <https://note.com/kokedou>